

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	下関市こども発達センターどーなつ		
○保護者評価実施期間	6年12月 9日		6年12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	124	(回答者数) 69
○従業者評価実施期間	6年12月 9日		6年12月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	7年 2月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種が連携することで様々な専門的観点から支援方法やアプローチを考えることができる。	年間を通したプログラムに運動、言語、心理が療育に参加し、それぞれの分野から利用児個々の評価や療育への助言を受ける機会を設定している。さらに家庭支援として、保護者研修や療育後の振り返りにも参加している。	研修時期や研修内容について、職員全員の共有を図りたい。特に新規職員については保護者研修への参加も促したい。
2	個々の発達段階、現在の目標を意識したチームでの一貫した療育を行っている。	利用児個々の発達段階や目標に応じた支援アプローチをするため、療育前後に全職員でミーティングを行っている。	職員のスキルアップのための研修を、平等に受けることができる機会を設けていきたい。
3	療育後に保護者への振り返りを行っている。 療育内容、利用児の成長を理解していただくためビデオに録画し解説することでより良い親子関係、子育てへのヒントにつなげている。	その日の活動のねらいを伝え、子どもの成長した点を主に解説してる。 子どもの気持ちを代弁しながら、どのようにしたらできていくのか支援者が行った支援方法について伝える機会にしている。	集団の中では伝わらなかった事柄を保護者に個別フォローしていくことも必要となる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	クールダウンが必要、または個別対応が必要な子どもが利用する部屋がない。	定員に対して部屋数が少ないため、個別の対応をする空間がない。	現時点では、廊下や訓練室、相談室の空き状況を見ながら利用している。少しでも視覚、聴覚情報を調整し安心して過ごせる空間を作りたい。
2	利用人数が増え、同時に個別対応を必要とする子どもも増えている。それに対して、経験を生かせる職員が少ない。	対応する職員が固定されている。	職員間でのミーティングで、対象児の分析を行い考えられる対応方法について意見を交換し、全職員が次に生かせる経験としていく。また成功したときの経験についても同様に共有する。研修やコンサルテーションを受けながら個々の職員が理解を深めていけるような環境を提供する。
3	非常時等の対応についての説明が不十分	週に1回午前のみ、または午後のみ利用のため中央こども園とともに避難訓練の参加や非常時の対応についての周知が行き届いていない。	グループ懇談等の機会を利用し非常時の取り組みについて、説明する機会をあらかじめ設ける。